

# 音楽科学習指導案

日 時 平成28年9月9日(金) 1校時  
会 場 音楽室  
学 級 1年3組(男18名 女16名 計34名)  
授業者 佐藤久美子

## 1 題材名 曲想を感じ取り,表現の工夫をしよう

(『カリブ 夢の旅』 平野祐香里 作詞 橋本祥路 作曲)

## 2 題材について

### (1) 生徒観

1年3組の中学校入学時のアンケートでは,多くの子どもたちが「歌うことが好き」「器楽が好き」と答えている。しかし積極的に自分から声を出して歌う事には,多少抵抗があり,声を十分に出して歌うことに消極的である。男子と女子を比べると男子のほうがのびのびと歌うことができる。

4月からの音楽の授業では,歌詞の内容を考え,音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取って表現を工夫して歌ってきた。今回の題材は,初めての混声3部合唱の取り組みとなる。本題材では,歌詞の内容を感じ取り,速度や強弱の変化を生かした表現の工夫をさせていきたい。また,強弱記号に関しては,読み方や意味を知っているが,曲を歌う時には,活用できていなくなることが多くあるので音楽記号で表している作曲者のメッセージを考えながら曲の表現につなげる活動にしていきたい。

### (2) 題材観

本題材は,学習指導要領内容の

「A 表現 (1) ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り,表現を工夫して歌うこと。」

「共通事項:イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて,音楽活動をして理解すること。」に関する内容である。

「曲想」は,その音楽固有の表情や味わいのことある。音楽を形作っている要素のうち比較的わかりやすい速度と旋律に注目し,再度楽曲をとらえてゆくことが大切であるとする。生徒が客観的にとらえた音楽的な感覚を根拠をもってとらえ直すことで,音楽的表現が深まると思われる。

「表現の工夫」においては,前半 A と後半 B の対照を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感させていきたい。

本教材は,前半 A が主に斉唱・後半 B が混声三部合唱である。A と B の曲想の違いを感じ取りながら,速度の違いを歌詞の内容や旋律との関係に注目し,それらの働きと表現の関連を感じ取りながら,歌唱表現につなげていきたい。

### (3) 指導観

前半 A と後半 B の明確な対比(順次進行と躍動進行・シンコペーションなどのリズムの特徴・速度や強弱の変化など音楽的要素の対比明確)それによって曲想も大きく変わることを感じ取らせていきたい。

楽譜に記されている音楽に関する用語や記号などについて理解するだけでなく,「なぜこの歌詞にはこのリズムがつけられたのか」「このフレーズにつけられている用語や記号には,作曲者のどのような意図がこめられているのか」などをみんなで共有することが必要である。

工夫する点は,個人で考えることを基本とし,少人数での意見交換を大切にしながら,発表により全体の確認としていきたい。自分の考えと似ていることや改めて感じることを大切に,今後の中学校の合唱活動につなげていきたい。

#### (4) 研究との関わり

##### ○主体的な学び

本題材では、前半部分と後半部分の明確な対比を感じることで、曲想の変化をとらえられることになる。実際に歌ったり聴いたりすることで、曲の構成の対照で気が付いたことや工夫することを自分の言葉で音楽的な表現ができるようなシートを活用する。また、1年生ということでも音楽的な表現の仕方が乏しい生徒もいると思うが、考えを発表し合うことで、今まで自分が気付かなかった表現の仕方等に気づき自分の考えを広げていけるような場としたい。

##### ○協働的な学び

表現の工夫をする部分では、グループごとの練習で課題を深めていきたい。「歌う」ことに対して消極的な生徒も多くみられるが、中学校に入学し初めての合唱コンクールを機会に小人数でのグループ練習でお互いの考えを共有させ、協力して実技練習ができる環境を作りたい。いずれは自由にみんなの前で歌唱ができるような生徒に育てていきたい。

##### ○振り返り

学んだことを言葉で確認するだけではなく、実際に歌唱表現をして振り返る活動の1つとしたい。加えて、時間の振り返りとしては、振り返りシートを活用し次の時間への課題につなげていきたい。

「学びのリフレクション」の時間では、生徒が司会進行をして本題材に取り組んでからの振り返り時間とし、題材を通して学んだことやこれからの学習につなげたいことを発表を通じて意見交換をする。

### 3 題材の目標

(1) 歌詞の内容や曲想に注目し、表現を工夫して歌うことに主体的に取り組もうとする。

【音楽への関心・意欲・態度】

(2) 旋律の音のつながり方や強弱・速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。

【音楽表現の創意・工夫】

(3) 歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な発声・言葉の発音・呼吸法などの技術を身に付けて歌っている。

【音楽表現の技能】

### 4 指導と評価の計画（4時間）

時間	学習活動	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意・工夫	音楽表現の技能
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 範唱を聴き曲全体の雰囲気をつかむ。</li> <li>・ 前半 A と後半 B の曲想の違いを理解する。</li> <li>・ パートの役割を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌詞の内容や曲想に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技法（発声・言葉の発音・呼吸法）などを身に付けている。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲に出てくる強弱記号の確認をする。</li> <li>・ 前半と後半の音楽を形作っている要素（リズム・旋律・強弱・速度）について比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 強弱記号などの音楽記号を意欲的に調べようとしている。</li> <li>・ 音楽の諸要素を確認しながら調べようとしている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べた強弱記号を生かし曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うか意図をもって歌っている。</li> </ul>

3 本 時	・前半部と後半部の速度の違いに着目させ、歌詞や旋律との関係から、表現の工夫をする。	・曲にふさわしい音楽表を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・速度の違いを知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら音楽表現を工夫し、どのように歌うか思いや意図をもっている。	
4	・前時の学習内容を思い出し、まとめの合唱をする。 ・学びのリフレクション	・合唱を録音し、工夫しあった内容が表現できているか主体的に確かめようとしている。	・音楽を形づくっている要素に気づき主体的に表現しようとしている。	・音楽表現に必要な技法を身に付けている。

## 5 本時について

### (1) 主題

速度の変化を感じ取り、旋律や歌詞との関連を考えた歌い方の工夫する

### (2) 学習目標

前半部と後半部の速度の変化を生かし表現を工夫し歌うことができる。

### (3) 評価規準【評価方法】

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
音楽への関心・意欲・態度	・歌詞の内容や曲想に興味・関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 【行動観察・振り返りシート】	・机間指導で声掛けやアドバイスをする。
音楽表現の創意工夫	・速度の変化や歌詞、旋律との結びつきを知覚し、ふさわしい音楽表現を工夫している。 【行動観察・学習シート】	・机間指導で声掛けをする。
音楽表現の技能	・速度の変化や歌詞、旋律との結びつきを生かした曲にふさわしい表現をするために必要な、発声、発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。 【行動観察】	・歌唱の場面で、仲間の歌い方も参考にさせながら声掛けをする。

### (4) 指導の構想

本時は、前半部と後半部の速度の変化を生かし表現を工夫して歌うことができることを目標とする。

前時までは、初めての混声三部合唱に取り組むためにソプラノ・アルト・男声パートのそれぞれのパートで音程を確認することから始めた。

「課題・見通し」の場面では、前時の音楽の諸要素の確認をし、本時の課題へと結び付けたい。また、課題を解決するための授業の流れを確認することで、1時間の見通しを持ち、学習に臨ませたい。

「自力解決・探究」の場面では、前時で確認した前半部と後半部の曲想の違いを板書で確認し、全員で共有し直す。また、学習シートにより自分の考えをまとめ発表することで、お互いの新たな工夫のしかたを共有できる場面とし「協働・深化」につなげていきたい。

「協働・深化」では、速度の変化を生かした表現の工夫について、自分の意見をまとめ話し合い、歌唱表現をすることで、表現の工夫についての考えを深める活動としたい。

「学習整理」の場面では、歌う事も含めて1時間の振り返りとし、振り返りシートの活用により、個人の学習成果のまとめとしたい。

(5) 展開

学習 課程	学習活動	学習内容 ・予想される生徒の反応	■指導の工夫・支援 ●評価 ◇振り返りの場面
課題 ・ 見 通 し 8分	1 発声練習をかねて「カリブ 夢の旅」を合唱する 2 課題を把握する	○自分のパートの音程を確認。 ・後半部分のパートの音程が不安定である。	■不確かな音程は、ピアノで 確認。
前半部と後半部の速度の変化を感じ取り,歌い方を工夫しよう。			
自力 解 決 ・ 探 究 13分	3 前半部と後半部を速度によ って変化を付けた表現の工 夫をする  個人～発表	○前半部(静のイメージ)と後半部(動 のイメージ)の速度の変化の表現の 工夫。 ・前半は,ゆったり歌いたいので指定のテ ンポの中でもゆっくり歌いたい。 ・後半は,元気なイメージもあるので少し 速めに歌いたい。 ○互いの知覚・感受の交流。 ・自分の意見でない人の考えを知ることが 出来る。	■前半と後半の速度バランス の比較に気づかせる。 ■前時までの内容は,紙板書で 黒板に貼る。 ■学習シートに記入しながら 進める。
協 働 ・ 深 化 22分	4 発表をもとにパートごとに 速さを試しながら練習する  パートで発表 全体で確認	○表現の工夫の仕方の確認。 ・パート練習の中で速度の変化を感じとり ながら歌う。 A 前半:普通 後半:普通 B 前半:普通 後半:速く	■曲想の特徴の中で,速度の変 化を知覚・感受できるよう に繰り返し練習する。  ●速度や旋律の特徴を感じ取 り,思いや意図をもって表現 することができる。
学 習 整 理 7分	6 全体でまとめの合唱をする  7 学習のまとめをする	○まとめの合唱。 ・今回の自分たちの速度を決めて歌ってみ る。 ○本時の授業についての振り返り。 ・2, 3人の発表	●自分たちの合唱を精一杯歌 うことができる。  ◇振り返りシートを用いて,本 時の授業の振り返りをす る。

## (6) 板書計画

「カリブ 夢の旅」(混声三部合唱)

前半部と後半部の速度の変化を感じ取り  
歌い方を工夫しよう。

前半 後半

強弱  
リズム  
旋律

どんなイメージで歌いたいかを  
まとめる紙板書

♪ 「速度」の変化によって  
曲の感じ方が変わる

## (7) 「学びのリフレクション」の視点

・題材の途中の「リフレクション」

- ① 音楽の諸要素の「速度」の工夫を学習して感じたことは何ですか。
- ② これからの合唱活動にどんなふうにかしていきたいと思いますか。